

日本遺産認定に向け申請中！

現在、国が進める日本遺産認定事業の31年度分に、応募申請しました。

◆「日本遺産」とは

日本の文化・伝統を語るストーリーです。東京オリンピックまでに、国が地域の歴史的魅力や特色を通じ、ストーリーを選考し日本遺産に認定します。認定されると、ストーリーを語る上で不可欠な構成文化財群とその魅力を、オリンピック開催中に訪れる外国人旅行者などに紹介するほか、文化財の総合的な活用への取り組みを国が支援します。

◆認定事業の概要

○申請ストーリーの区分
「地域型」単一の市町で完結
「シリアル型」複数の市町に展開
○認定の件数
東京オリンピックまでに全国から100ストーリー程度を認定する予定で、昨年度までに67件が認定されています。

◆多久市の申請ストーリー

○ストーリーのタイトル
「ものづくり幾万年のゆりかごー丹邱多久ー」

○内容の概要

市内には、指定・未指定を問わず多くの文化財があります。古くは旧石器時代からの、多久市の「ものづくり・まちづくり・人づくり」に関連する文化財160件を紹介する県内の「地域型」ストーリーです。

取り組みへの応援をお願いします！



▲構成文化財「多久聖廟」

問い合わせ 教育振興課 文化スポーツ係 ☎75-6701 (文化財発掘事務所)

今月の論語

うたが
疑わしきには
問を思ふ

わからないときは、
質問をしましょう

今月の帰宅放送は、東原彦舎中央校9年 中尾 幸太さんです

教育長コラム

ちよっといい話



「みんな、がんばろうね」

師走に、年賀状を失礼する旨の葉書が届いた。驚いて読み返し、言葉を失った。

その学校で、教育の一環として取り入れていた人形浄瑠璃の、親を探し求める主人公の心境を理解して演じ、小学3年生ながら指導者を驚かせた子からの葉書だった。その子自身、母が家をで、父は遠方の業務で帰らず、祖父母に育てられていた。会えないけれども、生きてさえいてくれたらと願ったその父親が逝ってしまったというのだ。

災難は子どもたちにも容赦なく降り注ぐ。しかし、悲しみや、辛さを抱えた子どもたちにも新学期がやってくる。いかなる環境におかれた子どもたちも、希望に向かって進めるように、周囲の大人は優しい眼差しで励ます存在でありたい。

「みんな、がんばろうね」

教育長 田原 優子

市民文芸

◆ だんだんに 冬陽は当り紅の
庭の椿は 光を放つ
川浪 信子

◆ 朝な 枯葉残さず 門を掃く
小さき 工場の 社員ら三人
浦野 嘉恵

◆ 光ある 大地に 目覚め 勇気ある
歴史を 刻め あなたの 意志で
野崎 隆幸

◆ われの 身は 八十七年 呆けもせず
子、孫、曾孫と 暮らす 倅
福島那智子

◆ 「惜別の歌」再び共に 和すことの
かなわず なりて 睦月 淋しや
尾形 節子

◆ 流し 雛 浮き 沈みつ つ 何処まで
雛の 間に 月の さし 込む 京 格子
武富 律子

◆ 我が 性を 乗せて 流さむ 紙 雛
白白と 光を 返す 花 辛夷
本村 則子

◆ 児童館 赤い 風船 ふはりふは
倉成 皓二

◆ 新芽から 生さる 希望を 貰う 朝
井上 東子

◆ 神の 技 春は 桜に 秋 紅葉
松下 修

◆ 親心 オレオレ 詐欺が 這入り込む
猪ノ口 昭子

◆ 国境を 越えて 空から 汚される
高塚 ちかこ

◆ いつから か 道が 違った 友の 仲
古賀 弘子

短歌 《麦の芽短歌会 互選》

俳句 《互選》

川柳 《西山残月 互選》